

〇〇ができるようになるまで

皆さんはお子さんに“いろいろなことを経験してほしい”“挑戦してほしい”“できるようになってほしい”など、きっとこのような思いを抱いたことはありませんか？私たち保育士も園の保育理念【無限の可能性を信じ、共に育ち合う個と公の集団】とあるように子ども達の無限の可能性を信じ、行事やテーマ保育を通してできる経験や機会を大切にしています。以前、「早く〇〇ができるようになればね…」「なんでうちの子だけまだ〇〇ができないのか…」保護者の方から子どもの自立について質問がありました。家での様子を聞くと、「あまり取り組めていなくて…」「やらせてあげられていないんです」「いろいろチャレンジはしているんですけど…」と、家庭により理由はさまざまでした。

私が保護者の思いを聞いて考えたことは、そもそも“なんでもすぐにできる”というのは難しいことです。人は馬や牛などの動物と違い生まれてすぐには歩けません。大抵の動物は命を守るためにすぐに歩くことができたりしますが、人は寝返りをうつことから始まり、首がすわり座れるようになりハイハイをしたりと少しずつ発達の段階があってやがて歩けるようになりますよね。そこで私たち保育士ができることは何なのかを考えた時、子どもが成長していくために必要な環境を整えることです。どんな環境でも良いわけではなく、一人ひとりに合った物や場所、機会です。例えば、食事の場面で、“フォークを使って食べてほしい”という思いがあるのならば、どんな環境が必要なのか…？もちろん、フォークを用意しますよね。次に、使い方を知らせなければ子どもは使えません。そこで見本を見せるのが、大人（保育士・親）ですね。そして一度教えただけではできません。くり返し使い方を見せることで習得していきます。（人は最低でも7回同じことを言われて覚えていくそうです。）そう考えてみると、一つのことを教えるのにいろいろな準備や援助が必要だということが分かります。私たちも保育をしていく中で、子どもの成長にあった目標を立て、環境や機会について考えています。「〇〇ができるようになってほしい」と言うのは簡単ですが、実際にやってみると大変です。そこで保護者の就労支援と子育てのお手伝いができるのは、私たち保育士だと思います。横浜りとるばんぷきんず勤務する保育士は、現在20名弱。ということは約20通り、もしくはそれ以上の子育てについて提案や考え、方法があるのです。その他には臨床美術士や英語教師、モンテソーリ資格を持った保育士がいます。保護者の方には困った時だけでなく、何でもないことでもお話やご相談いただくと、私たちの気付きにもなり成長にも繋がる“機会”になります。

そして私が最後に伝えたいことは、大人が子どものために用意をする環境と機会の中で、誰と出会うのか、何を経験していくのか“出会い”が大事であるということです。たくさんある出会いから子ども達が自分で選択することが未来に繋がっていきます。私たちとの出会いも、記憶に残るのではなく心に残る“出会い”になることを願っています。

(ソム)